

「クマ奥山放獣進めて」

NPO「白山の自然考える会」 吉野谷村長に要望

特定非営利活動法人（NPO法人）「白山の自然を考える会」は二十五日、白山鳥獣保護区を広く抱える吉野谷村役場を訪れ、人里で捕獲されたツキノワグマの奥山放獣を促進するよう、林業村長に要望した。

同保護区は石川、岐阜両県にまたがる約三万八千畝。毎年十一月十五日から三月月間の狩猟期間中でも、クマやウサギなど四十八種類の動物捕獲が得意な。



同会はこの日、役員三人が村役場を訪ね、高橋村長は、白山スーパ外男理事が「クマが絶滅し林道周辺といった人が

考える会の高橋理事（右から2人目）らが、林村長（左）に要望書を手渡した。吉野谷村役場で

するよう、住まない場所への放獣に、後世に悔いを残してはいけない。県の方針に沿って、住民の理解を得られるよう働きかけ、放獣を進めてほしい」と訴え、林村長

「住まない場所への放獣に理解を示し、「周辺の村と話し合って対処してほしい」と話している。

きたい」と述べた。またクマの生息数が里山を中心に増えていると推測し、「村内が高齢化し、動物を守るより、自分たちを守ってほしい」という声も多い」とも話した。

同会は今週末、石川森林管理署、白山ろくの一町四村にも、同様の要望書を送っている。

県自然保護課によると、二十四日までに県内で奥山に放されたクマは三頭。おりにかかるなど

（松山義明）

クマの放獣に理解を 白山ろくの一町五村に

各地で人里へのツキノワグマの出没が増え、石川県では鳥獣保護管理計画上限の2倍を超えるクマが駆除されているため、絶滅を心配する同県のNPO法人「白山の自然を考える会」（石野洋理事長）は25日、同県吉野谷村など白山ろくの一町五村に対し、白山鳥獣保護区へのクマ放獣を受け入れるよう理解を求め、要望書を出した。

県鳥獣保護管理計画では、クマの推定生息数（約

ところが、実際には「安全が保証できない」などとして関係自治体の同意が得られず、おもむき得ず射殺するケースも相次いでいる。要望書では「野生動物の宝庫である白山地域で、ツキノワグマが絶滅するようなら、後世に悔いを残す。これ以上殺さず、放獣できるよう、住民の理解を得る方向で働き掛けてほしい」としている。

【山中尚登】

700頭）の1割を年間捕獲数の上限と決めている。しかし、今年5月から今年10月までに155頭が捕獲され、ほとんどが射殺されている。このため、県は今シーズン、その方針を打ち出した。

の狩猟（猟期は今年15日～来年2月15日）を、自粛期間も含め事実上禁止した。また、おりなどで捕獲したクマについては、なるべく奥山に放獣する方針を打ち出した。

このうち、吉野谷村には高橋外男さんが訪れ、「ツキノワグマの駆除が現状のまま続けは絶滅の恐れも懸念される」として、白山鳥獣保護区への放獣について理解を求めた。これに対し林業村長は「住民の安全を第一に考えた上で、できる限り協力したい」と述べた。

クマの奥山放獣を NPOが要望書

白山を中心に自然保護活動に取り組むNPO法人「白山の自然を考える会」は二十五日、ツキノワグマの奥山放獣の受け入れを求める要望書を白山麓の一町五村に提出した。